

景気動向指数

1 福岡県の景気動向指数(CI) (2020年3月)

先行指数	118.1	(前月と比較して 0.5ポイント減少。)
一致指数	101.8	(前月と比較して 5.0ポイント上昇。)
遅行指数	102.2	(前月と比較して 1.1ポイント上昇。)

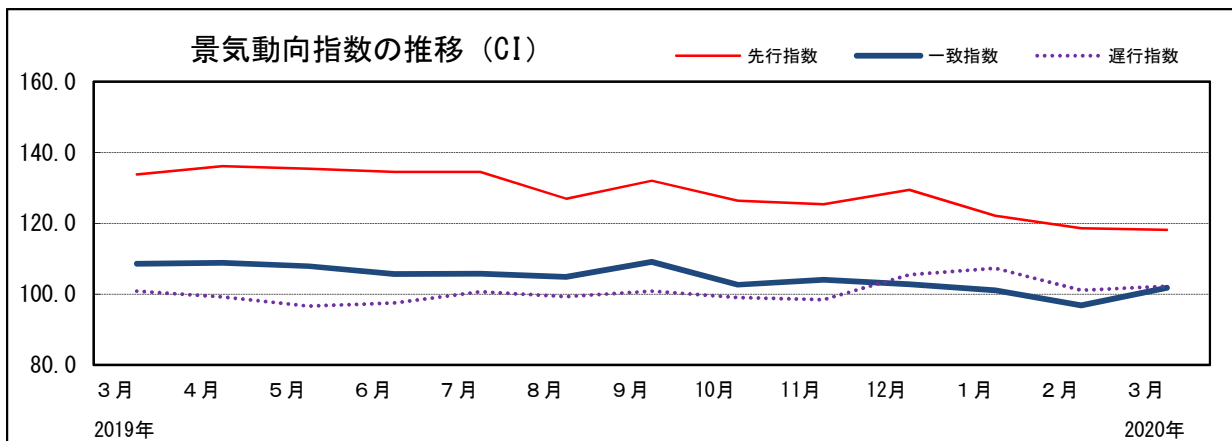
福岡県

		先行指数	一致指数	遅行指数	
2019年	3月	133.8	108.6	100.8	
	4月	136.1	108.8	99.2	
	5月	135.4	107.9	96.6	
	6月	134.5	105.6	97.5	
	7月	134.5	105.7	100.7	
	8月	126.9	104.9	99.3	
	9月	132.0	109.1	100.8	
	10月	126.3	102.6	99.0	
	11月	125.4	104.0	98.4	
	12月	129.4	102.8	105.5	
	2020年	1月	122.1	101.1	107.3
		2月	118.6	96.8	101.1
3月		118.1	101.8	102.2	

全国

		先行指数	一致指数	遅行指数	
2019年	3月	96.4	101.4	104.1	
	4月	96.3	101.5	104.2	
	5月	95.4	101.5	104.1	
	6月	94.2	99.3	104.2	
	7月	93.9	99.2	104.4	
	8月	92.6	98.3	104.1	
	9月	92.4	99.8	104.0	
	10月	91.9	96.1	102.9	
	11月	91.0	95.1	102.9	
	12月	91.4	94.3	102.9	
	2020年	1月	90.8	95.7	102.0
		2月	91.9	95.4	100.7
3月		84.7	90.2	100.0	

資料出所：福岡県調査統計課、内閣府「景気動向指数(CI)」



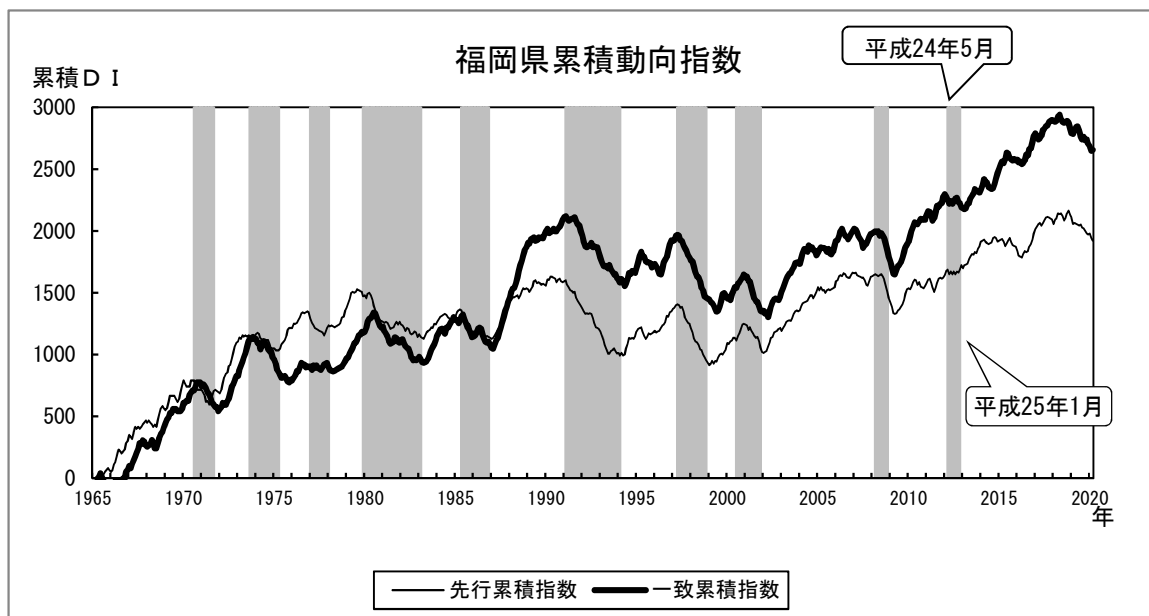
○ 各指標の寄与度

	プラスの指標	寄与度	マイナスの指標	寄与度
先行系列	生産財生産指数	2.26	日経商品指数	-2.97
	輸入通関実績	1.38	最終需要在庫率指数	-0.88
	乗用車新車登録台数	0.25	新設住宅着工床面積	-0.47
			新規求人数	-0.21
一致系列	鉱工業出荷指数<総合>	1.72	スーパー販売額	-0.52
	単位労働コスト<製造業>	1.64	輸出通関実績	-0.20
	鉱工業生産指数<総合>	1.53	有効求人倍率	-0.18
	所定外労働時間<製造業>	0.92		
遅行系列	地銀貸出約定平均金利	2.26	勤労者世帯消費支出(福岡市)	-1.44
	鉱工業在庫指数<総合>	0.73	雇用保険受給者実人員	-0.88
	常用雇用指数<全産業>	0.44	法人事業税調停額	-0.32
	消費者物価指数(福岡市)	0.22		

寄与度0の指標は、便宜上プラスの指標に掲載している。

景気動向指数

2 (参考) 福岡県の累積動向指数 (DI) (1965年4月～2020年3月)



資料出所：福岡県調査統計課

(参考) 累積景気動向指数 (累積DI)

毎月公表している景気動向指数の月々の値を累積したものが累積景気動向指数 (累積DI) です。累積 (DI) はある基準年月 (1965年4月) を0とし、次式により月々累積して求めています。

$$\text{累積DI (当該月分)} = \text{前月の累積DI} + (\text{当該月のDI} - 50)$$

累積DIは、基調的な動きをわかりやすく、視覚的にとらえやすいという利点をもっています。なお、グラフのシャドウ部分は、景気の後退期をあらわしています。

福岡県の景気基準日付 (景気の山、景気の谷)

谷	山	谷	拡張期間	後退期間	全循環
	昭和45年10月	昭和46年12月		14か月	
昭和46年12月	昭和48年11月	昭和50年7月	24か月	20か月	44か月
昭和50年7月	昭和52年3月	昭和53年4月	20か月	13か月	33か月
昭和53年4月	昭和55年2月	昭和58年5月	22か月	39か月	61か月
昭和58年5月	昭和60年7月	昭和62年2月	26か月	19か月	45か月
昭和62年2月	平成3年4月	平成6年5月	50か月	37か月	87か月
平成6年5月	平成9年6月	平成11年2月	37か月	20か月	57か月
平成11年2月	平成12年9月	平成14年2月	19か月	17か月	36か月
平成14年2月	平成20年5月	平成21年2月	75か月	9か月	84か月
平成21年2月	平成24年5月	平成25年1月	39か月	8か月	47か月

(参考) 景気基準日付

景気の拡張局面と景気の後退局面を分ける景気の転換点のことであり、景気動向指数の一致指数から作成されるヒストリカルDI (HDI) が50%を超える、もしくは切るときが景気の拡張局面と後退局面を分ける転換点となります。HDIが50%ラインを上から下に切るときが景気の「山」、下から上に切るときが景気の「谷」といわれています。

※HDI：通常使用している一致指数から不規則変動を除去したもの